

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 28 日現在

機関番号：12611  
 研究種目：若手研究(B)  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22720240  
 研究課題名(和文) 日本古代における書状を利用した社会的情報の共有化と管理に関する研究  
 研究課題名(英文) A study on social information sharing and management using letters in ancient Japan.

研究代表者  
 野田 有紀子 (NODA YUKIKO)  
 お茶の水女子大学・文教育学部・非常勤講師  
 研究者番号：20447569

研究成果の概要(和文)：本研究では、平安貴族社会における社会的関係を探るために、書状によって伝えられた社会的情報がある特定の空間で共有化され管理されるという事実に注目した。従来、史学的研究対象としてあまり扱われてこなかった墨跡・手鑑・女性の仮名書状・古典文学・古往来を含めた平安期書状を総合的に集成・分析した。その結果、書状による情報共有化過程と機能が明らかとなり、今後の平安貴族社会研究に活用できることが確認できた。

研究成果の概要(英文)：This study noted social information sharing and management using letters to clarify social relationships in the society of Heian aristocracy. This study comprehensively collected and analyzed letters in the Heian period including penmanship, collection of handwritings, women's Kana-letters, classical literatures and old-ōrai. This study clarified process and function of social information sharing using letters, and confirmed letters to be able to utilize for the future study on the society Heian aristocracy.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：日本史

科研費の分科・細目：古代史

キーワード：日本古代史、平安貴族社会、書状、仮名書状

## 1. 研究開始当初の背景

近年、日本古代史の分野では、儀式の次第や参加者を分析することなどにより、社会的関係を究明する研究が盛んに行なわれてきた。こうしたなか筆者は、従来古代史分野では扱われることが少なかった「行列」を素材として、社会的関係解明の研究を進めてきた。たとえば「日本古代の鹵簿と儀式」(1999年)

では唐皇帝と日本天皇の鹵簿を、「平安貴族社会の行列—慶賀行列を中心に—」(1999年)では任官・叙位慶賀行列を「行列空間における見物」(2003年)では行列を見物する空間について、「行列空間における女性—出車を中心に—」(2004年)では女性の行列を扱った。その結果、律令国家の行列とは異なり、平安貴族社会の行列は、日常的に形成された

さまざまな社会的関係を基盤として人的・物的に形成されたこと、また行列形成によって社会的関係の再確認や強化も行なわれたことを明らかにした。

以上のような「行列」を素材とした平安貴族社会研究において、幾度か活用を試みたのが書状文例集「古往来」である。平安期『高山寺本古往来』『明衡往来』は当時実際に貴族社会で交わされた往復書状を収集・編集したもので、平安貴族間の相互依存関係や友誼関係に基づく動向を具体的に伝える貴重な史料である。しかし従来、「古往来」が古代史研究に利用されることは多くなく、内容全体を史学的に検討する本格的な研究は見られなかった。その理由としては、

(1) 「古往来」は主に、国語国文学・漢文学・教育史の観点から研究が進められてきた。

→「史学的な観点」で内容を研究・活用することはあまり行なわれてこなかった。

国語国文学、漢文学、教育史の観点では諸本系統の整理、校訂が進展しており、主な校本・研究書として、『高山寺本古往来・表白集』(1972年)、『日本教科書大系 往来編』第一巻古往来(一)(1968年)、『雲州往来 享禄本 索引篇 研究と総索引』(1982年)がある。

(※史学の分野では「内容」でなく、主に「古文書学的な文書形式の研究」で取り扱われてきた)

(2) 「古往来」の記載が史実をどの程度反映しているのか十分明らかにされていない。

→記載内容を史料として利用することが躊躇されている。

わずかながら史実との共通性について指摘した研究もあり、石井進は「中世成立期の軍制」(1969・1971年)において『高山寺本古往来』の相撲人の記述は10世紀末～11世紀初頭の事実を反映するとした。筆者も「平安貴族社会の祭列をめぐる社会的関係について」(2007年)で賀茂祭典侍が牛車を依頼する同書の記載は11世紀前半までの状況を示すと明らかにした。

そこで筆者は、若手研究(B)「平安期古往来の史学的利用に関する基礎的研究」(平成19-21年度)において、「古往来」の各条の記載を、同時代の古記録・古典文学・儀式書等の記述との合致点を確認した上で、史学的研究に活用する作業を行った。「平安貴族社会における扇と社会的関係」(2008年)および「平安貴族の招待状—古往来にみる交遊空間—」(2009年)では、「古往来」には古記録・儀式書には記されないような、日常的・個人的な動向が広範囲にわたり詳細に記され、ま

た古典文学・和歌よりも事実に忠実に基づいて記載されていることが分かった。

## 2. 研究の目的

しかしながら以上の「古往来」を利用した研究過程で、つぎのような事実に気づかされた。平安期「古往来」は当時の貴族社会で実際に交わされた書状を収集し、書状文例集として編纂したものだが、書状の収集、および回覧という行為は、「古往来」編纂の目的に限られず、当時の貴族社会で一般的に広く行われていたと見られるのである。

(1) 特定個人に充てた個人的内容の書状も、特定の空間内で別の人物が読み、回覧される。

- ・『枕草子』によれば、宮仕えの女房に届いた書状は、同じ職場の女房と一緒に読み、回覧されている。清少納言が藤原行成に送った書状は殿上人に回覧された。また清少納言が他人宛の書状の文面に憤慨し、また破り捨てられた書状を継いで読む場面がある。
- ・『葉月物語絵巻』では、帝から姫君に送られた書状を、姫君の母親が読む姿が描かれる。
- ・空海や最澄など高僧の書状が保存され、書状集として編纂され、広く読まれる。

(2) 書状の返信者、および最終保有者が、宛名の人物と異なる場合がある。

- ・延暦寺青蓮房旧蔵『不空三蔵表制集』『灌頂阿闍梨宣旨官牒』『諸仏菩薩釈義』紙背文書には藤原為房(1049～1115)および妻から届いた書状が残されているが、延暦寺僧から為房宛に届けられた書状に対し、夫の留守中に妻が代わりに読み、返信しているものがある。
- ・『枕草子』によれば、清少納言と藤原行成が交した書状は、中宮定子と弟僧に渡った。
- ・『紫式部日記』では書状が世間に散るのを防ぐため、読後すぐに返すよう頼む文言がある。
- ・名筆家・天皇・皇族・撰関・貴族・僧侶の書状は、墨跡・手鑑として伝来。

すなわち、平安貴族社会においては、書状によって伝えられた社会的情報が、特定の範囲内で共有化されることが日常的に行われており、それに伴う情報管理がなされていた。

我々が想像する以上に、古代において書状とは、平安貴族社会に対して極めてオープンな情報伝達媒体であったと考えられるのである。

現在、史学の分野では、書状の「発信」「受

信」の関係については、書状型式論をはじめとする研究が進行している。また反故書状の紙背文書としての再利用についても文書研究の一環として調査が行われてきた。しかし届けられた書状情報のその後の扱い、つまり書状によって伝えられた社会的情報の共有化とその管理については、未だ十分に研究がなされているとは言い難い。

そこで本研究「日本古代における書状を利用した社会的情報の共有化と管理に関する研究」では、平安期を中心とする書状のほか、古往来・古記録・古典文学・和歌・儀式書・絵巻・手鑑などを用い、以下の点を明らかにしたい。

#### ①平安期書状の総合的集成と内容の検討

平安期の書状のうち、墨跡・手鑑として残されているものは主に書道史分野で扱われ、また藤原為房妻をはじめとする女性の書状や古典文学に残されている書状については書道史・国語国文学の分野で触れられてきた。以上のような古代史分野でいまだ十分に研究対象となっていない書状を含めて総合的に集成し、内容について検討したい。

#### ②書状による情報共有化の具体的行動—その空間・目的・管理

具体的にどのような共有化行動が見られるか。書状の内容によって「家族」「夫婦」「職場」「身分・階級」など情報共有化の空間が異なり、それぞれの目的があると考えられる。そしてどこまで共有化するか、しないかなどの情報管理についても明らかにしたい。

#### ③書状による情報共有化の開始時期、および日本古代における書状機能の独自性について

日本古代の書状による情報の共有化行動はいつから、何を原因として始まったか。またそれは日本古代社会固有の行動なのか否か。中世以降の書状利用の変化や、中国古代書状との比較研究を行い、書状利用からみた日本古代社会の特質を探りたい。

以上の作業により、情報伝達媒体としての書状が平安貴族社会で果たした役割が明確となり、中世および中国古代と比較した日本古代における社会的関係の特質が一層明らかにできる。

### 3. 研究の方法

#### (1) 平成 22 年度

初年度は「書状による社会的情報共有化」研究の前作業として、書状データ収集・整理を行った。

①日本古代～中世前期の書状（紙背文書などとして現存する書状、古記録・儀式書・古典文学に引用される書状、墨跡・手鑑、古往来）を総合的に集成し、情報共有化データを抽出する。

②古記録や古典文学から、受信後の書状の動きや取扱いがうかがえるデータを収集・整理する。

#### (2) 平成 23 年度

研究第 2 年目に当たる本年度は、まず初年度にひきつづき、書状データの収集・整理を行った。

#### (3) 平成 24 年度

研究最終年度にあたる平成 24 年度には、日本古代の書状による情報共有化の開始期と契機、および中世社会における変化を探った。平成 22～23 年度に収集・整理した、古代・中世の書状データを基に、書状を利用した社会的情報の共有化がいつから行われていたか、そして中世以降にどのような変化が起こったか。それらの要因として政治的変化なども検討した。

### 4. 研究成果

#### (1) 平成 22 年度

研究第 1 年目に当たる本年度は、「書状による社会的情報共有化」研究の前作業として、書状データ収集・整理を始めた。具体的には、

①日本古代～中世前期の書状（紙背文書などとして現存する書状、古記録・儀式書・古典文学に引用される書状、墨跡・手鑑、古往来）を総合的に集成し、情報共有化データを抽出した。

②古記録や古典文学から、受信後の書状の動きや取扱いがうかがえるデータを収集・整理した。

こうして収集・整理したデータをもとに、まず本年度はとくに平安貴族女性をめぐる書状の動きに注目して研究を進めた。

平安貴族社会の女性は日常的に行動を制限されていたが、家族・親族・同階層女性のほか、さまざまな性別・身分・階層の人々と日常的に書状を交わし合い、なかでも女房は書状を用いたさまざまな任務が与えられた。

そうした書状情報は平安貴族社会内部に伝達され、共有化されたのである。

#### (2) 平成 23 年度

研究第 2 年目に当たる本年度は、初年度に

引き続き、書状データを収集・整理し、それらを詳細に分類・検討することで、「書状による社会的情報の共有化」の実態を明らかにした。

具体的にいえば、以下の4点である。

- ①書状によって共有化される社会的情報の内容。
- ②書状によって情報を共有化する空間と範囲。
- ③書状によって情報共有化を行う目的。
- ④情報共有化の際の管理方法および判断基準。

以上の収集データに基づき、論文「平安貴族社会における書状共有化と空間」、および「書状にみる平安貴族子弟の寺院生活と初等教育」の執筆を開始した。

### (3) 平成24年度

研究最終年度に当たる本年度は、初年度・第2年度に収集・整理した書状データを分析した。

その成果として、まずは、学術論文「平安貴族子弟の寺院生活と初等教育—藤原為房一家の書状を中心に—」を執筆・発表した(榎本淳一編『古代中国・日本における学術と支配』、同成社、2013年、所収)。これによって書状を用いた情報共有化過程と機能が明らかとなり、今後の平安貴族社会研究に活用できることが確認できた。

また本年度は、唐皇帝(代宗)喪葬儀礼の式次第「大唐元陵儀注」についての長年にわたる共同研究の成果として、金子修一編『大唐元陵儀注新釈』(汲古書院、2013年)を刊行した。本成果の活用により中国古代における儀礼や礼秩序の理解が深まり、それと比較することによって日本古代社会の独自性の究明につながるであろう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[図書] (計2件)

- ① 榎本淳一編『古代中国・日本における学術と支配』(同成社、2013年、担当 pp. 225-244)
- ② 金子修一編『大唐元陵儀注新釈』(汲古書院、2013年、担当 pp. 104-110, 196-210, 293-309)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

野田 有紀子 (NODA YUKIKO)

お茶の水女子大学・文教育学部・非常勤講師

研究者番号：20447569

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし